



経営の散歩道

一六一回

富山短期大学名誉教授 川中清司

「百二十年の伝統と164万企業。その総力を結集して問題解決にあたらう——」日本商工会議所の会頭に就任した山口信夫氏は、こう呼びかけた。

十三年十一月二十日、日商の役員・議員大会。「健康な日本の創造」を旗印にかかげ、なによりも「景気回復と経済の再生」を進めるべきだと訴えた。

大胆な景気対策を決議

ホテルニューオータニのザ・メイン宴会階「鶴の間」は、日本全国からかけつめた各地の商工会議所の会頭や役員など千人近くで埋め尽くされた。

福井県からは福井の江守幹男会頭や、武生、敦賀、

小浜の各会頭、専務クラスが顔を連ねたが、鯖江からはヒラ議員だけ。何とも忸怩たる思いだった。

大会の決議は、「財政再建を優先させれば、日本経済のダイナミズムを失い、中小企業の存続を危うくしかねない」とし、大胆な景気対策をもった2次補正予算を要求した。

あわせて、活力強化に役立つ分野への重点的な投資と、政策減税を求めた。

各論として、1、中小企業対策の拡充・金融機関の見直しで中小企業への公的融資の機能低下をさける・創業を積極的に支援。2、税制では(1)法人事業税の外形課税導入は絶対反対(2)事業を承継しやすいように相続税を軽減

(3)同族会社の留保金課税を全面的に廃止。3、街づくりでは、TMOの支援、高齢者時代にふさわしい「ユニバーサル・デザイン」の活用。4、地球温暖化問題への対応、などを求めた。

地域リーダーの議員憲章



「議員としての誇りと自覚を持つ」、「企業人として研鑽を重ね、企業活動を通じて地域経済の発展に貢献する」。

大会は、経営哲学を織り込んだ議員憲章を採択した。「魅力あふれる地域の創造を目指し、地域のリーダーとして街づくり、人づくりに果敢に挑戦」、地域社

会でのリーダーシップを発揮するよう方向づけている。具体戦略がない悩み

パティで各地の実状を聞いてみた。会員が減る。中心地が廃れる。どこも悩んでいる。だが「地場産業の活性化」、「商店街にに

危機突破に企業の総力結集を求めた

日商大会

「議員としての誇りと自覚を持つ」、「企業人として研鑽を重ね、企業活動を通じて地域経済の発展に貢献する」。

大会は、経営哲学を織り込んだ議員憲章を採択した。「魅力あふれる地域の創造を目指し、地域のリーダーとして街づくり、人づくりに果敢に挑戦」、地域社

委員会、諮問機関の多いほど、改革の速度は遅く、実績はあがらない。起きている現象は複雑で

未経験の分野が多い。論議が深まるほど、末説が噴出し收拾がつかなくなる。

大事なことは、各分野で優れた専門の英知を結集すること。そして大局を見失

わない事。必要なのは戦略決定のスピードだ。「次善の策の欠陥を嫌い、最悪の案をつかむの愚をするな」と、マキャベリーは言う。

求められる指導者の識見

毎日のように何千億円と言う巨大赤字、倒産のニュースがながれる。

大企業には債務免除と言う「借金棒引き」がまかり通り、庶民には、あくせく稼いだ命綱の預金すら1千万円以上は責任もたないという金融信義の瓦解。資本主義の根幹をゆるがすデフ

レスパイラルの予兆。

この困難な時代を乗り切るには、指導者の高い識見と強い理念が求められる。

今度のアメリカの同時多発テロでブッシュ大統領は「これは戦争だ。恐れず立ち向かおう」と、長期を覚悟した具体的な戦いの道筋を指し示している。

危機突破には強い意志とはつきりした路線の打ち出しが必要で、国家も企業も同じだ。

「元氣と活力をよみがえらせる。多少の時間はかかっても必ず再生させる」と山口日商会頭は力説した。情勢が不透明であればあるほど、明確な方向指示が不可欠。困難の行く手に見えるかすかな希望でも良い、真実を訴え、協力を求めることだ。一番避けねばならぬのは、トップの逡巡と軟弱な経営姿勢だ。鯖江会議所は多士済々、その活動に期待は熱い。